

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

当たり前の指導の成果

校長 澁谷 一男

通勤途中、刈り取られた稲田の脇にコスモスの群生地がある。赤紫や濃淡のピンク、白色、時にはオレンジなど、色鮮やかで愛らしい花の群舞は、今がまさに見頃である。

先日、朝の情報番組で、パリ市街地のごみの投棄問題を取り上げていた。その華やかさから「花の都」とうたわれるパリ。その至る所に、紙くず、たばこの吸い殻、空き瓶などが無造作に投げ捨てられている映像は、少なからず衝撃的だった。

ところが、最近、この問題に新たな動きが起きているという。市民が清掃ボランティアに取り組み始めたのだ。しかもその活動を最初に始めたのが日本人だというのではないか。その日本人が始めた活動が、次第に多くのパリ市民へと広がっていったのだそうだ。

似たような話を最近聞いたことがあると思った方も多いであろう。今年の 6 月に開催された F I F A ワールドカップ・ロシア大会でのことだ。日本代表の活躍も大きな話題となったが、一方で日本人サポーターの行動も世界中から称賛を浴びた。彼らは、多くの会場で試合後に応援席のごみ拾いを行っていた。そして、その行動は他の国のサポーターにも広がりを見せたのである。

また、日本代表チームは、ベスト 8 を懸けた試合で惜しくも敗退してしまったが、その試合後、ロッカールームをきれいに整理整頓し、ロシアの方々にお礼のメッセージまで残していったことも報道された。

「来たときよりも美しく！」これは、私が教員になった頃から（あるいはもっと前から）、修学旅行や自然教室などの校外学習で、日本の学校が当たり前に指導してきたことだ。この指導には、「次に使う人のことを考えて」という公共心や公德心を育てるという思いが込められている。

一連のニュースを聞き、日本人として大変誇らしく思うと同時に、日本の教育が「当たり前」のこととして指導してきたことが世界中から称賛されたように感じ、教育に携わる者として大変うれしく思った。

9 月 28 日、1 日順延で実施された親善陸上大会。6 年生が自己ベストの更新を目指してカ一杯各競技に臨んだ。子どもたちが帰った後、使用した応援席には、ごみ一つ落ちていなかった。

